建設興業タイムス　2005年（平成17年）7月23日

毎週（水・土曜日）発行　（昭和34年6月20日）（第三種郵便物認可）　新聞定価（税込み）月ぎめ4,950円

アトピー改善に有用

調湿木炭「炭八」

比較試験で効果実証へ

出雲土建㈱（出雲市神門町、石飛裕司社長）と島大医学部が03年度から共同で進めている、調湿木炭「炭八」がアトピー性皮膚炎など環境抗原アレルギーに及ぼす効果への研究（3月19日付既報）で、同大医学部の森田栄伸教授（皮膚科＝写真）がこのほど横浜市で開かれた日本皮膚アレルギー学会・日本接触皮膚炎学会の合同学術大会で「木炭敷設が有用である可能性が示された」とする研究発表を行った。

研究は03年5月からアトピー患者男女6人（10－30歳代）の自宅床下や天井に炭八を敷設し、その影響を調査。10カ月間で6人中5人がダニ・カビ特異IgE値（血清に含まれる抗体値）、血清総IgE値が低下し、中には皮膚症状が半分程度に大幅緩和するなど改善傾向が見られた。

今回の研究は、初歩段階で患者が他の治療も併用していることから「炭八の効果で治った」と立証できるものではないが、森田教授は「比較試験を行う価値があり、効果を実証したい」として、十数人の患者宅に炭八を敷設して経過を見る比較試験を、今年から2年がかりで実施する考えを示した。

炭八の調湿効果は、島大総合理工学部との共同研究で既に実証されている。アトピー性皮膚炎の重要な憎悪因子といわれるコナヒョウヒダニやカビなどの環境抗原を、炭八の調湿作用によって阻害し症状改善に至ったことが立証されると、医学界でも画期的な研究成果となる。石飛社長は「炭八を使用された方から効果を知らせる連絡が相次ぎ、関心が高まっている。今後の研究で効果を立証し、患者の皆さんに役立てば、大変うれしい」と話す。

また、島大医学部小児科と進めている小児ぜんそく患者を対象にした共同研究も、今秋以降に成果を発表する予定。

森田教授（島大医学部）学会で研究発表